

会 議 名	令和7年度(2025年度) 第2回八王子市食育推進会議	
日 時	令和7年 7 月 10 日(木) 14時30分～16時00分	
場 所	八王子市保健所4階 401会議室	
出席者氏名	委 員	加藤 直樹、野下 清子、勝田 芳子、松本 賢一、峰尾 幸代、岡部 貴代、岩瀬 政子、小池 さとみ、田川 富美子、町田 淳一、三宅 久美
	事 務 局	田中保健所長、志村健康づくり推進課長、仲宗根主査、萩原主任、茂木主任、上地主事
欠 席 者 氏 名	葛西 真弓、内藤 里美、浦野 真沙子、松久保 雅和、篠原 由美子	
議 題	第4期八王子市食育推進計画の骨子(案)について	
報 告	第1回ワークショップの進捗状況について	
公開・非公開の別	公開	
非 公 開 理 由		
傍 聴 人 の 数	なし	
配 付 資 料 名	次第 【資料1】 第4期八王子市食育推進計画の骨子(案)について ご意見シート	

【会議の内容】

《開会》

発言者	内容
健康づくり推進課長	定刻となりましたので、ただいまより令和7年度第2回八王子市食育推進会議を開催いたします。構成員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、御出席をいただき、誠にありがとうございます。本推進会議は設置要綱にもございますように、八王子市における食育に関する取り組みを総合的な見地から協議、意見交換を行う場としております。また、本食育推進会議は原則、公開となっていることから、会議録作成のため録音をさせていただきますので、ご了承ください。 なお、議事録については議事録案を作成し、皆様に内容の確認を行った後、本市のホームページで公開しております。議事録における構成員の発言につきましては、これまでと同様に構成員の皆様の個人名は記載せず、「構成員」と表記させていただきます。 本日の傍聴人はいないのでこのまま進行します。 それでは、会議の開催に先立ち、保健所長より御挨拶をさせていただきます。
座長	八王子市保健所長の田中でございます。 皆様におかれましては、大変お忙しい中、御出席をいただき、誠にありがとうございます。 本日は、構成員の皆様と総合的な視点での意見交換を行いたいと思っておりますので、皆様から積極的な御発言をいただきますようお願いいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

健康づくり推進課長	ここから、八王子市食育推進会議開催要綱、第5条により、会議の進行を保健所長にお願いします。
座長	それでは、議事に入ります。議事 1「第4期八王子市食育推進計画の骨子(案)について」、事務局より説明をお願いします。
事務局	「第4期八王子市食育推進計画」(以下:「第4期計画」という)の骨子(案)についてご説明させていただきます。 第1期食育推進計画から継承している「あるべき姿」(将来像)である「食を大切にする人々を育むまち」を目指して、将来像を市の最上位計画である未来デザイン 2040 の計画満了年度である 2040 年に実現させるために必要な取組(戦略)を導き出すという考え方をもとに骨子を検討しました。横軸を時間軸ととらえていただき、まずは、第4期計画の満了年度である 2029 年に達成すべき3つの目標1, 2, 3, の実現を目指していきます。現在の評価指標の達成度から目標を達成するためのあるべき水準を 100%とし、そのギャップを埋めるための戦略として第4期計画に4つの視点を定めました。食育推進計画の基本目標達成に向けた、4つの戦略は目標と現状のギャップを埋めるため、国の食育推進基本計画をもとに、国の動向や、八王子市食育のこれまでの取組結果や課題、外部環境変化などを総合的に踏まえて導き出しております。 一つ目の「外部環境の変化」として人口減少や気象変動など脅威となる外部要因があります。下の国の動向として、「生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進」「持続可能な食を支える食育の推進」は第4次計画の重点事項となっております。 八王子市の課題として、令和6年度に実施した市民意識調査の結果から見えてきた課題を要点としました。さらに現行計画である第3期計画から発展させるべき要素をくみ取った形で、4つの戦略を立案いたしました。1 つ目は、子どもから高齢者まで全世代の健康と未来を育む土台である「生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進」です。2 つ目は、「食の安全・安心の推進」です。食の安全、安心は私たちの命と健康の基盤であり、食品添加物やアレルギー、食中毒などのリスクの多様化は正しい知識をもつことが大切です。3 つ目は、持続可能な未来をきづくための大切な視点である「食と環境の調和の推進」です。4 つ目は、「地域や関係者がつながる食育の推進」です。地域や関係者、行政が協働することで食を通じた豊かな地域づくりが実現すると考えます。 「生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進」については、主に各世代の「望ましい食生活の推進」を中心的な取組としていきます。健康の視点として「適正体重の維持に関する取り組み」に注力していきたいと考えております。その理由の 1 つとして、本市の肥満傾向児の課題があります。令和6年度の「東京都学校保健統計書」より小学5年生の男子、及び女子の肥満傾向児の割合について表したグラフになります。八王子市は区部、市部、近隣市と比較しても肥満傾向児の割合が男女ともに高い傾向があります。肥満は特に生活習慣病と呼ばれる糖尿病、脂質異常症、高血圧などの原因となり、これらは動脈硬化を促進し、将来的に心筋梗塞や脳卒中を起こすリスクを高めます。そしてこれら生活習慣病は成人のみならず、こどもの頃から動脈硬化は進行するといわれています。また幼児期の肥満が大人の肥満に移行しやすいことがわかっております。さらに思春期になると、身長が伸びて体格が形成されてしまう事や肥満を引き起こす生活習慣が定着してしまうことからもとに戻すことが大変難しくなるといわれています。 「食の安全・安心の推進」については、主に食の安全に関する知識と理解や災害に備えるための推進を行っていきます。「食と環境の調和の推進」については、食品ロスや持続可能な食環境の推進、地産地消などの推進を行っていきます。「地域や関係者がつながる食育の推進」については、地域での共食など、食を通じた交流の推進や担い手の育成・支援、食環境整備の推進

	を主に行っていきます。 第4期計画の特徴として、ライフコースアプローチの考え方をとりいれていきます。4つの戦略をそれぞれのライフステージを縦断させる形で、各ライフステージをつなげた取組を行います。ライフステージを点でとらえるのではなく、つなげて線でとらえることで、より取組みの充実を図ります。 ライフコースアプローチの考えのもと、取組の主体は、市民を中心として、その周りを取り巻く企業、大学など多様な主体が一体となって連携して食育を推進していくことをめざしております。つきましては、4つの戦略の推進は行政だけでなく、市民や関係団体の取組も併せて記載していきたいと考えております。 4つの戦略のうち、具体的に「食の安心・安全の推進」を例にお示しします。まず行政の取組としましては、主に4つの所管課が「食の安全性に関する情報提供」や「災害時の食料備蓄について啓発など、それぞれの取組を行うことで「食の安心・安全」を推進していきます。 市民、企業・団体の取組としましては、「市民が災害時の食の備えを行う」、「手洗い等の衛生習慣を意識した日常生活を送ることを取り組む」など、市民や企業・団体もそれぞれの立ち場で食育を推進していくことでより実効性の伴う計画にしていきます。 第4期計画のまとめです。第1期計画策定から今年度で14年目となります。これまでの食育推進計画の思いを受け継ぎながら、「あなたと食の未来を「織りなす」時期に位置づけたいと考えております。第4期計画は「市民」を中心にみんなで推進する施策と位置付けており、『あなた』と一緒に八王子の未来へ食育のバドンをつないでいく、という思いを込めました。また第4期計画はライフコースアプローチの考え方を大切にしている点から、4つの戦略を「縦糸」と考え、普遍的なもの、そこに環境や時代によって変化する「ライフステージ」という「横糸」を織り込むことで、食育を点ではなく、面として考えることで、関連する団体や物事をより包括的にとらえ、未来につなげていく時期という思いを込め「織りなす時期」という表現にいたしました。 参考資料として、第3期現行計画と第4期計画の比較表をつけさせていただきましたので、御参照いただけたらと思います。第4期計画の骨子案の説明は以上となります。
座長	事務局の説明が終わりました。御質問、御意見等はございますか。
構成員	私は小児科専門なのですが、八王子市は小児肥満がやはり多いと思います。小中学校を通して「成長曲線を使って適正な体重、身長にいきましょう」という啓発をしている最中ですが、肥満の児童が多すぎる現状があります。しかし、肥満の改善は食育だけでは難しいのかなと思います。例えば、小学校などで、「肥満管理プログラム」を作ったり、管理栄養士を巻き込んだ取組をしたりするなどしていければ良いのではと思います。小児肥満で外来に来る方は、血液検査をすると、肝機能障害や高血圧がある方もいますが、食育だけのアプローチは難しいと思います。
構成員	今のお話に質問なのですが、以前、歯科検診で虫歯がある子どもの統計をとった際に、八王子市は東京23区と比較し、多い傾向にありました。また、八王子市の中でも地域差がありました。そのような地域差は、小児肥満でも関係があるのでしょうか。
事務局	現段階では、肥満の地域差については調べ切れていないというのが現状です。説明の中でお示した、本市が他市よりも小児肥満の数値が高いことに関して、実際の数値の算出の仕方というのは、内科健診で各学校の学校医が判断した数を計上しているため、明確な基準がありません。医者の見立てによるところがあるため、その基準を統一化する方向性で計画している状況となっています。

構成員	小児肥満については、地域差はあまりないと思います。
構成員	歯科検診をしていて、小児肥満が多い印象は無かったので、先ほどのお話を聞いて驚きました。子どもが一人でご飯を食べるということになると、お菓子をだらだら食べてしまうようなことがあり、そのような家庭が今は多いのではないかと考えています。現状として、歯医者さんに来てもらえないということもあるので、家庭の中でも、「食後には歯をしっかりと磨く」ことを教えていく啓発が必要ではないかと思っています。
構成員	先ほどライフステージの横系と、4つの戦略の縦系というお話があったかと思いますが、各年代や性別等によって、必要な食のあり方について個別に最適化するということは、意識や習慣化が必要ではと思います。それぞれの対象にあった目標を設定すると良いのではないかと思います。例えば肥満であれば、「最適な体重を目指す」、その目標に対して必要な栄養などを「見える化」できるようにした方が良いのではと思います。青年期であれば、「強い身体作りを目指す」、中高年であれば「栄養バランスのとれた食事をとる」、高齢者であれば「健康寿命を長く保てるような食事をとる」など、目標達成のために取組を「見える化」していくことはいかがでしょうか。例えば、ホテル業界では、AIやDXを使って数値の「見える化」が進んでいます。食育でも、アプリ等を活用して、「自分に必要な栄養素や食物は何か」、「運動はどの程度必要か」など、それぞれの市民が取組む上で、具体的な料理例や数値が「見える化」されることで、食や健康に対して意識し、習慣化させることができるようになるのではないかと思います。 また、先日行われた保健所主催の「食品衛生実務講習会」に参加いたしました。食べ残しの持ち帰り推進について説明がありましたが、飲食店側では食中毒のリスクや責任の範囲に不安もあるかと思っていますので、食品ロスの観点からもこれらの点について説明する機会を設けていただけたらと思っています。
構成員	一企業としての立場からの話になりますが、事務局の説明でもございました、「食品の安全・安心の推進」や、「食と環境の調和の推進」に関する取組については、食品企業として当たり前に行っています。市民のみなさんへお届けする商品は当然安全、安心でないといけなと思っています。また、フードロスもできるだけ少なくしなければならないので、しっかりと行っています。食育の話ですと、弊社では消費者の方の健康を推進しており、「魚」をポイントにしています。弊社の社員の健康診断でも血液検査の中で、「EPA」がどの程度あるかを調べます。「EPA」の量が多いほど、動脈硬化になりにくく血液サラサラに良いということが分かっています。社員の中で、この数値が良好である人は若干名ですが、普段魚をあまり食べない人に関しては、数値がかなり低くなっています。弊社の中で「健康番付」のようなことを行っており、この数値が改善した人は表彰するという取組も行っています。弊社では、高たんぱくで低脂質である商品、例えば魚肉ソーセージやちくわ等の商品を開発しておりますので、それらを食べることで、健康や肥満解消につながると 생각합니다。企業の立場から言うと、小学校に出張教育も行っているのです、そのようなコラボや健康フェスタ・食育フェスタなどでお役に立てればと思います。
構成員	事務局からの説明を受けて、どのようにしたら具体的に取組んでいけるのかということが、目指すところなのだろうなと思いながら聞いていました。その年代あるいは生涯を通して、食育に関して、どのように伝えていくことが受け止めやすく、実際に身になるのかということが気になりました。
構成員	年代別の適正体重の問題というのは、若い女性の痩せ、中高年の肥満、高齢者の低栄養等が話題になっており、高齢者の低栄養は本当に深刻だなというのを日々実感しています。高齢者の男性は、今まで食や栄養にあまり興味を持たず、「高齢者であれば、そんなに栄養つける必要がない」と思っている方が多いです。先ほどの事務局の説明にもありましたが、お子さんがこ

	のような食事をとっていると肥満になり、それが動脈硬化等のリスクがあるということを、妊娠期からパパやママへ教育することが大事かと思います。また、具体的な取組の案として、小学5、6年生に対して、自分の適正体重や必要な栄養素について知り、自分自身の健康について考えるという機会を与えると良いかと思います。料理等の写真を撮れば、すぐに栄養素が分かるようなアプリもあるので、そのような媒体も活用して、夏休みに親子で楽しんで取組むことが生涯の健康にもつながるのかなと思いました。
構成員	私はこの会議に参加し、構成員に対して何を求められているのか未だによく分かりません。このようにそれぞれの立場から意見を伺えば、皆さん発言されますが、それがどのように計画に取り上げられていくのかがよく分かっておりません。私は、高齢者いきいき課の管轄である高齢者サロンで、「体操の会」を約25年間、主催しています。高齢者サロンは百数十団体が所属しています。その中で、栄養に関する学習会などの活動もありますので、高齢者の低栄養についても取り上げてみてはどうかという提案をしていただくのも良いのではと思います。また、年に一度など、在宅の栄養士も活用いただき、栄養の話をさせていただくのも良いのではと思います。
座長	ありがとうございました。今のような具体的なご提案をいただけるのは、この会議に参加いただいている皆さんの非常に大きな役割であり、求めていることですので、ありがとうございました。
構成員	先ほどのお話から、小児肥満が多いことに驚きました。肥満の子の親もそのような傾向にあるのではないかと思います。第4期食育計画策定の方向性を聞き、それぞれのライフステージに合わせてどのようにアピールしていくのかがやはり問題と思っており、赤ちゃんがお腹にいる時から、母親への意識づけ等が必要だと思いました。 また、私は地域食堂をやっており、主に高齢者のお客が多いのですが、高齢の方が食べている姿を見た時に、食事の内容がご飯と唐揚げだけで食事に偏りがあると感じました。お店での陳列の工夫や野菜がたくさん入った1品メニュー等も販売しているのですが、この時に高齢者の低栄養の問題を改めて感じました。孤立している高齢者、例えば市の「てくポ」アプリを利用していない、また介護保険に入っていない方等に対してどうしていくかを考えるべきなのかと思います。 また、高齢者は食品の保存がしっかりできないことがよくあるため、高齢者の食品の衛生管理の懸念があります。
構成員	食に関する普及啓発、例えば災害対策等の普及啓発イベント等に参加される方々は、すでに災害等への意識が高い層であるため、無関心な層にも届くよう工夫が必要であると思います。職員やボランティアなどが、サロンや親子向けイベントなどに出向いて市民に「知ってもらう」ことが重要であると考えます。給食センターの紹介動画のように分かりやすい情報発信を、限られた場所だけでなく多様な場で展開すると良いと思います。私自身、スポーツ推進委員としての活動の中でも、食に関する啓発が可能であり、ライフステージを越えて幅広い市民に情報を届けることが大切だと感じます。「知らない」ことが実践の妨げになるため、まずは市民が「知る」機会を広げる必要があるのではないかと思います。企業や団体と連携し、地域ぐるみで取り組むことが望ましいと考えます。さらに、子どもの肥満対策として、運動量の低下にも着目し、高齢者向けサロンのように子ども向けのサロンや講習を設けることで、子どもから親世代へと啓発を広げる可能性があるのではないかと思います。
構成員	持続可能な食の推進を目的として、7月に小学校のサマースクールにて講師を務めます。教室では「大学芋づくり」をテーマに実施予定です。大学芋は、カーボンフットプリントの観点から

	見ると、米よりも環境負荷が少ない食材であり、持続可能な食育の一環として適しています。 また、今年の秋には地域で BBQ 大会を開催予定です。このイベントでは、災害時の備えとして、自宅で備蓄している食品を持参し、参加者同士で試食する企画を予定しています。実際に食べてみることで、災害時に自分が食べられるかどうかを確認する機会となります。 小児肥満に関しては、八王子市で多いとされているものの、普段イベントを通じて子どもたちと接する中で、肥満傾向のある子どもをあまり見かけないため、実態に疑問を感じています。小児肥満に関する統計は主観的な要素が含まれているとお聞きしたので、客観的かつ絶対的な数値でのデータ提示が望まれます。高齢者との関わりについては、地域での交流を促進し、つながりを広げていきたいと考えています。
構成員	私の思いとしては、誰も傷つけない食育を進めてほしいと思います。 小児肥満についてお聞きしたいのですが、学校医によって、肥満の判定度が違うとのことがありました。検査をする時期に関しては他市町村も含めて同じなのでしょうか。
構成員	学校によってデータを算出して出してくれるところもあれば、おそらく見た目で「肥満」と判断したような結果で出す学校もあります。その算出基準を統一するために取り組んでいる所です。
事務局	検査をする時期について、八王子市も他市も時期は同じとなっています。
座長	若い人が魚をあまり食べないことや、栄養バランスの良い食事を摂ることを目指すことについて、社員食堂で工夫して取り組まれていることはありますか？
構成員	フードロス削減に関連する取組として、ご飯の量を選べるようにしたり、残菜の写真を撮って社内で掲示したりしています。 「魚」の摂取に関しては、社員の 30%程度は外国人の方であるため、どうしても嗜好が偏ってしまいます。取組としては、社員食堂では、必ず、「肉」か「魚」か選べるようにしており、TLTメニュー（魚を使用したメニュー）を買うと、売り上げの一部がアフリカの子どもたちへ寄付ができるような仕組みにしています。
構成員	大学生の朝食欠食に関して、八王子市内で朝食を提供している大学はあるのでしょうか？
事務局	市内にある全ての大学について把握はできていないですが、帝京大学の学食で朝食を低価格で提供しています。また、地域の子ども食堂でも、子どもに限らず、誰でも利用できる「誰でも食堂」もあります。そのような所でも朝食の提供をしている取組をしているとお聞きますので、大学生も含め、色んな方に知ってもらい利用を勧めていきたいと考えております。
座長	これより報告事項に移ります。「第1回ワークショップの進捗状況について」、事務局より説明をお願いします。
事務局	令和7年度 第1回ワークショップについてご報告いたします。第1回ワークショップについて概要と当日の流れは、スライドに示した通りです。第1回目では、「八王子市の課題を整理し、将来象を検討しよう」というテーマで行いました。当日の流れとして、初めに各班、自己紹介をし、その後、八王子市の現状や課題についてグループ内で意見を出しました。その後、市の食に関する強みや弱み、課題等を踏まえ、健康や食の面で八王子市がどのようなまちになってほしいか、また、めざす姿を個人で意見を出し合い、その後、各グループでキャッチフレーズとしてまとめ、全体で発表を行いました。話合いの中で出た意見は、色違いの付箋紙に各々の意見を書き出し、各グループ一枚の模造紙に付箋紙を張り付けまとめました。色分けについては、スライドに示した通りで、青色の付箋紙に八王子市の食に関する強み、ピンク色の付箋紙に弱みや課題、黄色の付箋紙に将来像を記入していただく形となっています。 続いて、各班の話し合いの様子とまとめについて簡単にご報告いたします。始めに、1 班につ

	いてです。1 班では、八王子市の特徴として「農業が身近にある」ことや「市民は、食事の味が濃いものを好む傾向がある」という意見が挙がっていました。また、個人の将来像の意見では、「地場野菜を市民が自慢できるまちになってほしい」、「自然と健康になれる環境づくりをしたい」、などの意見が挙がっていました。これらの意見から、1 班は、「子どもの頃から楽しく自然と健康になれるまち」と「全世代が地場野菜でつながるまち」をキャッチフレーズとしてまとめました。 次に、2班についてです。2班では、八王子市の特徴として「学校給食を通して行事食や伝統食を知れる機会が多い」ことや「八王子産の農産物や買える場所が分かりにくい」という意見が挙がっていました。また、将来像の意見では、「農業界に市民も気軽に参加できるようにしたい」、「八王子市の食料自給率を高めたい」、など意見が挙がっていました。このような意見から、2班では、市民が八王子市の農産物を知って、買って、食べるまでの流れを大切にし、『食を楽しめるまち』を目指したいという思いから、「八王子市の食のストーリーを生み出し皆が食を楽しめるまち」をキャッチフレーズとしてまとめていました。 最後に、3班についてです。3班では、八王子市の特徴として「はちおうじ健康応援店事業で飲食店の協力が得やすい」ことや「食に関するイベントが多い」、「大学で食育に関する案内やオリエンテーションがあまりない」という意見が挙がっていました。また、将来像の意見では、「孤食ゼロの居場所づくりをしたい」意見が挙がっていました。これらの意見をまとめ、3班では、「若い世代から年配まで食事に困らない八王子市にしたい」、「子どもから高齢者までの「全世代型」の取り組み」を進めるキャッチフレーズとしてまとめていました。 7 月 18 日(金)に行われる第 2 回ワークショップでは、第 1 回で検討した課題を解決するため、また将来像を実現するために必要な取り組みアイデアを検討します。第 1 回と同じように、意見は付箋に記入していただく形で、「誰が」「何をする」という取り組みの主体と取り組みアイデアを挙げていただきます。ワークショップでいただいたご意見は、食育推進計画の各取組のページにある『市民や関係団体、所管課の取組』という赤枠の部分に、反映したり参考にしたりする予定です。 今後のワークショップについてお伝えさせていただきます。第 2 回の日程とテーマはスライドに記載の通りとなります。第 3 回では食育推進会議とワークショップは合同開催となっております。第 1.2 回ワークショップの結果についてワークショップのメンバーからそれぞれ発表を行います。その後、会議の構成員の方々から、御意見や御感想をいただきたく流れとなっています。引き続き、御協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。 ワークショップについてのご報告と今後のお知らせは以上となります。
座長	事務局の説明が終わりました。御質問、御意見等はございますか。
構成員	ワークショップのメンバーはどのように募集したのでしょうか。
事務局	一般企業や団体に関しては、HP や SNS で募集の案内を出し、公募という形でメンバーを決定いたしました。大学生は、大学コンソーシアム八王子にご協力いただき、希望する 6 名の大学生を推薦いただきました。庁内職員については、食に関する所管課からメンバーを選出いただいた形となっております。
座長	本日予定しておりました議事、報告は終了いたしました。議事進行に御協力いただきありがとうございました。それでは、進行を事務局に戻します。
健康づくり推進課長	次第の4つ目、その他に移ります。構成員の皆様から、特に御意見、御連絡事項等がございませんので、事務局より連絡事項をお願いします。

事務局	本日、お配りしている御意見シートについては、追加で御意見がありましたら、御記入いただき、7月17日(木)までに、下記に記載のメールアドレスまたはFAXで御提出くださいますようお願いいたします。また、次回の第3回食育推進会議は8月28日(木)14時30分～を予定しております。第3回食育推進会議はワークショップの報告会と合同開催となりますので、ぜひ御参加いただきますようよろしくお願いいたします。
健康づくり推進課長	本日は、お忙しい中御出席いただき、誠にありがとうございました。 皆様にいただいた御意見を踏まえ、第4期食育推進計画の策定作業を進めて参ります。よろしくお願いいたします。 以上をもちまして、令和7年度第2回食育推進会議を閉会いたします。